

## ま え が き

わが国鉄鋼業界のここ10年間の輝かしい発展は、海外諸国より驚異の眼で見られております、とくに圧延部門での拡充ぶりは瞠目すべきものがあり、鋼材需要の増大とともに、設備合理化、新鋭設備の建設が相次いで行なわれ、圧延工場は設備はもちろん技術面でも格段の進歩を示しました。

分塊分科会は鉄鋼技術共同研究会鋼材部会の中で、昭和26年以降しばしば会合が開かれ、鉄鋼8社（八幡製鉄、富士製鉄、日本鋼管、川崎製鉄、住友金属工業、神戸製鋼所、日新製鋼、三菱鋼材）の真剣な共同研究の場として斯界のために有益な成果をあげ、昭和29年には、当時の研究結果を集大成して報告し、好評を受けました。

その後設備は益々高能率化し鋼塊の大型化とともに3重式分塊圧延設備はほとんど影をひそめ、2重逆転式かつ大容量の設備が続々と登場し、またごく最近にはユニバーサル分塊圧延設備も2、3建設され稼働を開始し、これに伴って生産量の増加はもとより、分塊圧延技術も大幅に飛躍向上しました。

これら新鋭設備の稼働に当り、われわれの共同研究が有形無形に活用されたことはいふをまたないところであります。その意味で現在における各社設備の概要および作業方法を知り、これを将来のより大きな発展の基礎とすることはすこぶる有意義であると確信いたします。

ここにとりまとめた内容は日進月歩の現状では、すでに古くなつたものもあるかもしれませんが、関係各社担当者の数次にわたる熱心な努力の積重ねでありまして今後の技術向上の参考資料として利用いただければ幸甚です。

最後に編集に尽力された関係各位、資料提供に御協力いただいた関係各社および委員幹事諸氏に対し深く感謝いたします。

昭和36年5月

鉄鋼技術共同研究会

鋼材部会長 平 世 将 一